

第2回国際コークス製造会議に参加して

柏谷悦章

北海道大学工学部

1992年9月28日から9月30日までの3日間、ロンドンのQueen Elizabeth II会議センターにおいて、「第2回国際コークス製造会議 (2nd International Cokemaking Congress)」が開催された。Queen Elizabeth II会議センターはロンドンの中心に位置しており、ウェストミンスター寺院、国会議事堂、ビッグベンおよびセント・ジェームズ・パークなど世界的な名所に囲まれており、その会議場の名前からもわかるように非常に権威のある会議場である。会議に先だって、9月27日にWelcome Receptionが行われた。場所は、すぐ近くのBanqueting Houseで行われ、1919～1922年に建てられた、非常に歴史を感じさせる荘厳な建物であった。

第1回の会議は、1987年にドイツで行われているが、筆者は、参加しなかったため詳しいことはわからないが、参加した人の話によると発表件数は、増えているとのことであった。第2回の会議では、27ヶ国から50件の報告と35件のポスターセッションが行われた。日本からは、8件の報告と3件のポスターセッションのエントリーがあった。国別の参加人数を、表1に示した。参加者は、全体で444人、そのうち、イギリス、ドイツ、フランスからの参加者が約6割になっている。日本からは、筆者を含めて10名の参加があった。ほとんどが、各企業からの参加者であり、大学からの参加者は、非常に少なかった。

発表件数からもわかるように比較的小さな会議であるが、当初は30件程度のpaperを集める予定でいたらしい。しかし、募集してみると130件も集まり、発表件数を絞り込むのに苦心したらしい。

会議は、Group A、Group Bの二つの会場に分かれて、平行して行われた。Group Aのテーマは、“Operations,

Pollution Control and Coke Properties”であり、Group Bのテーマは、“Principles and Theory, Automation and New Technologies”である。各Groupはそれぞれ、表2のようなセッションから成っている。

本会議は、コークスの製造がメインテーマであるせいか、ほとんどが実操業に関する報告と言ってよく、基礎研究に関する発表が少なかったことが、非常に残念であった。この会議の前には、ドイツのThyssen製鉄所の高炉と焼結工場を見学させていただき、また会議後には、Technical Visitで、British SteelのScunthorpe工場のコークス炉を見学させてもらった。両方の工場とも、非常に細かな操業データから工場の隅々まで懇切丁寧に説明してくれたが、Fundamental Studyに関しては、ほとんど議論にならなかったように思う。

本会議は、日本の鉄鋼協会と金属学会に当たる「The Iron and Steel Division of The Institute of Material」によって主催されている。会議のChairmanは、British SteelのDon Leonard氏であった。筆者のように会議に初めて参加するものにとって、会議のChairmanというと非常に遠い存在のように思えたが、会議の後に参加したTechnical Visitでは、彼がScunthorpeの工場に勤めていたことから、直接作業着姿の彼から説明を聞き、またWelcome Receptionで一緒に会食をする事が出来たことで、非常に親近感を覚えた。

最後になりましたが、本会議への出席にあたり、日本鉄鋼協会より、第17回日向方学術振興交付金による御援助をいただきました。ここに厚く感謝申し上げます。

(平成4年12月24日受付)

表1 国別参加人数

参加国	人数	参加国	人数
Australia	14	Italy	8
Austria	4	日本	10
Belgium	20	Korea	5
Brazil	3	Nigeria	2
Canada	8	Mexico	3
China	3	Poland	7
CSSR	7	Russia	10
Denmark	3	Spain	8
Egypt	2	Sweden	7
Finland	8	Netherlands	6
France	38	Ukraine	4
Germany	78	UK	137
India	13	U.S.A.	35
Indonessia	1		

表2 会議の構成

Group A	Group B
Operations, Pollution Control and Coke Properties	Principle and Theory, Automation and New Technology
1. Current Operation	1. Carbonization Mechanism and Coking Pressure
2. Machines	2. Coal Properties and Blend Formulation
3. Coke Properties and Use	3. Automation Instrumentation and Control
4. Pollution Control	4. Physical and Mathematical Simulation
5. Treatment of Waste Products	5. Developing Techniques, Designs and Equipment